

施策評価（令和2年度）

施策評価調査

戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略			
施策3-5 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	林業木材産業課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和2年8月25日

1 施策のねらい（施策の目的）

全国に誇るスギ資源を循環利用し、林業・木材産業の成長産業化を実現するため、木材の新たな市場の開拓等による需要拡大や、川上から川下まで競争力の高い木材・木製品の安定的な供給体制の整備を促進し、全国屈指の木材総合加工産地として更なる発展を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

							施策の方向性(1)~(4)	
代表指標①	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
素材生産量(燃料用含む)(千m ³)	目標			1,554	1,576	1,673	1,700	
	実績	1,470	1,484	(1,519)	R2.9月判明予定			
	達成率			(97.7%)	—			
出典:農林水産省「木材統計」、林野庁「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」	指標の判定			(b)	n			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
	東北	—	—	—	—	—		
<ul style="list-style-type: none"> 公表されている最新の平成30年実績値は1,519千m³で、令和元年目標値の96.4%の水準になっており、29年との比較では、2.4%増加している。 素材生産量の燃料用を含まない令和元年速報では、0.3%増の1,289千m³となっている（全国4位、東北2位）。 本県のスギ人工林は本格的な利用期を迎えており、全県域で素材生産が活発化している。 林内路網の整備や高性能林業機械の導入促進、低コストで安定的な原木の生産体制の整備、原木の有利販売のための新たな流通システムの構築への取組などにより、素材生産量は堅調な伸びを示している。 								

							施策の方向性(1)~(4)	
代表指標②	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
スギ製品出荷量(千m ³)	目標			651	670	688	706	
	実績	591	634	(640)	R2.10月判明予定			
	達成率			(98.3%)	—			
出典:県林業木材産業課「木材加工業実態調査」、「木材需給動向観測調査」	指標の判定			(b)	n			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
	東北	—	—	—	—	—		
<ul style="list-style-type: none"> 公表されている最新の平成30年実績値は640千m³で、令和元年目標値の95.5%の水準になっており、29年との比較では、1.0%増加している。 品質や性能の確かな製品を低コストで供給する木材加工流通施設の整備や、新たな木質部材の開発、首都圏や海外でのプロモーション活動等の販路開拓により、県産材の需要拡大が図られ、スギ製品出荷量は堅調な伸びを示している。 								

※ 指標の判定基準

「a」：達成率≥100% 「b」：100%>達成率≥90% 「c」：90%>達成率≥80%

「d」：80%>達成率 又は 現状値>実績値(前年度より改善) 「e」：現状値>実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(2)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
スギ人工林間伐面積 (ha)	目標			6,100	6,300	6,400	6,600	
	実績	5,152	4,703	(5,096)	R2.8月判明予定			
出典: 県林業木材産業課「間伐実績報告」	達成率			(83.5%)	—			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績値は未判明であるが、集約化による効率的な森林整備の実施や路網整備、高性能林業機械等の導入を促進した結果、直近の平成30年度実績値は5,096haで、29年度との比較では、8.4%増加している。 							

							施策の方向性(2)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
再造林面積 (ha)	目標			280	320	380	508	
	実績	240	226	(226)	R2.10月判明予定			
出典: 県林業木材産業課「秋田県林業統計」	達成率			(80.7%)	—			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の実績値は未判明であるが、直近の平成30年度実績値は226haで、前年度と同様の値となっている。 一貫作業システムや低コスト造林を促進した結果、造林補助事業の実績速報値では、令和元年度は289haと平成30年度との比較では27.9%増加している。 							

							施策の方向性(4)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
新規林業就業者数 (人)	目標			155	155	155	155	
	実績	133	130	(140)	R2.10月判明予定			
出典: 県森林整備課「秋田県林業事業体調査」	達成率			(90.3%)	—			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	5位	4位	4位	R3.2月判明予定		
		東北	1位	1位	1位			
	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度実績は未判明であるが、直近の平成30年度の新規就業者数は140人となっている。 林業への就業者数は、有効求人倍率が高い値で推移する中であっても、秋田林業大学校での人材育成の取組などにより、全国的に見ても高い数値で推移している。 							

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 秋田スギを活用した新たな木質部材等による需要拡大【林業木材産業課】	指標	代表①②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 非住宅分野での木材需要を喚起するため、新たに県内の事業者等をターゲットに、経済界と連携してセミナーを開催した（1箇所）。 ・ 非住宅分野での木材利用を進めるため、一般流通材を活用した畜舎の設計や木質耐火部材の開発、さらには、土木分野での需要を創出するためのCLTの床版利用等の実証に取り組むとともに、県内における木質構造等に精通した建築人材の育成を図るため、建築士を対象に設計演習を実施した（建築講座4回<△1回>）。 ・ オリンピック・パラリンピック県産材利用促進協議会を推進母体に、東京オリ・パラ大会関連施設への県産材利用について、大会組織委員会等関係機関への働きかけなどを行い、令和元年度には選手村ビレッジプラザへ県産材を供給した。 ・ 木材製品の新たな販路を開拓するため、県内の中小企業支援団体と連携し、米国や中国を対象とした輸出に係るセミナーを開催する等、情報提供を実施するとともに、商社等輸出事業者とのマッチングを図った（セミナー開催2回<+1回>）。 ・ 秋田市や大仙市に整備した大型の発電施設が本格的に稼働した結果、木質バイオマスとしての未利用材の需要が拡大している。燃料用チップを供給する事業者に対して、原木調達に係る課題解決に向けた取組を支援したことにより、素材生産量の増加につながっている。 		

(2) 林業の成長産業化に向けた生産・流通体制の強化【林業木材産業課、森林整備課】	指標	代表①②、成果①②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林経営計画の策定を進め、施業地の集約化による効率的な森林整備を実施した（間伐等森林整備面積速報値6,923ha<△197ha>）。 ・ 低コストで安定的な原木の供給体制を整備するため、林道等の開設により路網整備を促進し、林業経営体等による新たな高性能林業機械等の導入を支援した（林道：2路線 0.7km、林業専用道：16路線 8.5km、森林作業道：1,039路線 603.0kmを開設、高性能林業機械導入29台）。 ・ 立木や丸太の売買のマッチングを図る「木材クラウド」の開発を行う林業関係団体に支援するとともに、実用性を高めるため、関係団体による協議・検討会の開催や会員への操作研修を進めた。また、ICT等のスマート林業の推進に向けた研修会等を行った（研修会等5回<+1回>）。 ・ 再生林の低コスト化を推進するため、皆伐と再生林を一体的に行う「一貫作業システム」の普及に取り組んだ（一貫作業による再生林66ha<+31ha>）。 		

(3) 産地間競争に打ち勝つ木材総合加工産地づくりの推進【林業木材産業課】	指標	代表①②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材加工企業が実施する木材製材施設（1社）の整備を支援した。品質や性能の確かな製材品を安定的に供給するため、木材乾燥技術に係る講習会を開催（参加企業等12社）したほか、低コストで競争力のある製材品の供給体制を構築するため、外部専門家による生産技術指導を実施した（2社<±0社>）。 ・ 首都圏の木材市場において、県産材の展示販売会「秋田材展」を開催した（出展企業10社<±0社>）。また、「秋田材展」を契機として、新たに製材所による首都圏への共同出荷の取組が行われるようになった。 		

(4) 次代の秋田の林業をリードする人材育成【森林整備課】	指標	代表①②、成果③
<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業前の林業未経験者を対象に、行政と民間企業が一体となった「オール秋田」の指導体制により、専門性の高い知識、技術とマネジメント能力等を習得する研修を秋田林業大学校で実施した（令和元年度研修修了生16名が県内の林業・木材産業企業に就業<+2名>）。 ・ 林業への就業を促進するため、短期・中期研修及びインターンシップ研修の林業体験研修会を開催した（短期・中期研修及びインターンシップ参加者3名<△4名>（内2名<±1名>が県内林業事業体に就業））。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「素材生産量」、②「スギ製品出荷量」どちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、平成30年実績値は1,519千m³で、令和元年の目標値（1,576千m³）の96.4%の水準に達している。元年の燃料用を含まない「素材生産量」の国の速報値は、対前年比で0.3%増と増加傾向で推移しており、素材生産量は堅調に伸びている。 ● 代表指標②に関しては、平成30年実績値は640千m³で、令和元年の目標値（670千m³）の95.5%の水準に達している。木材加工流通企業が行う施設整備や国内外への販路拡大を目的としたプロモーション活動等の実施により、スギ製材品出荷量は元年においても増加していることが見込まれる。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文		秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。				
調査年度		R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.7%	17.2%			+4.5%
	十分 (5点)	2.1%	2.4%			+0.3%
	おおむね十分 (4点)	10.6%	14.8%			+4.2%
	ふつう (3点)	36.8%	36.9%			+0.1%
	否定的意見	17.0%	15.4%			▲1.6%
	やや不十分 (2点)	12.1%	10.2%			▲1.9%
	不十分 (1点)	4.9%	5.2%			+0.3%
	わからない・無回答	33.6%	30.6%			▲3.0%
	平均点	2.89	2.99			+0.10
	調査結果の認識、取組に関する意見等					
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.99」で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.2%、「ふつう」は36.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.4%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は54.1%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 ・ 県や市、国の事業では建築建材として利用されているが、対個人では安い輸入材が多く使われている。もっと個人での利用を促すべき。(男性/40歳代/秋田地域) ・ 国立競技場建設の一部に秋田スギを使用したと聞いているが、一過性にならずに継続的に建築資材として使用されるよう、大手建築会社と連携を図り販売体制を構築すべきである。(男性/60歳代/秋田地域) ・ 荒廃しかけている山林も見かける。手入れをきちんとすればもっと良い木材が多く生産でき、値段も下がるのではないかと。(女性/60歳代/由利地域)</p>						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<p>○ 住宅需要の減少が予測されており、住宅以外の分野での新たな需要の創出が求められている。また、建築物の木造化・木質化を手がける人材が不足している。</p> <p>● 公共建築物などにおいては、秋田スギが建材として利用されているが、個人の住宅などでは安い輸入材が多く使われている。もっと個人での利用を促すべき。(県民意識調査より)</p> <p>● 国立競技場の一部に秋田スギが使用されたとのことであるが、一過性にならずに継続的に建築資材として使用されるよう、販売体制を構築すべきである。(県民意識調査より)</p>	<p>○ 非住宅分野における木造・木質化の促進に向け、中高層建築物への木材利用に向けた木質2時間耐火部材の開発、木造設計に精通した人材の育成等に取り組む。</p> <p>また、県産部材の新たな用途を開拓するため、一般流通材を活用した実証施工や土木分野でのCLT等の活用などに取り組む。</p> <p>● 住宅建築での県産材利用率を向上させる工務店グループ等を支援するとともに、完成内覧会等での普及・啓発を図り、県民の県産材利用の意識醸成及び住宅での利用拡大を促進する。</p> <p>● 官民協働の協議会を推進母体に県産材の販売PR活動を展開し、新たに建材商社等とのつながりが形成され、東京オリ・パラ関連施設にも活用が図られた。こうしたつながりを生かし、今後も継続して首都圏等での販路開拓に官民一体で取り組む。</p>
(2)	<p>○ 低コストで安定的な丸太の生産・流通体制が十分とは言えず、コストが十分に低減されていない。また、皆伐後の再造林が低迷している。</p> <p>● 荒廃しかけている山林も見かける。手入れをきちんとすればもっと良い木材が多く生産でき、値段も下がるのではないか。(県民意識調査より)</p>	<p>○ 林内路網の整備や高性能林業機械等の導入を支援し、素材生産の効率化や低コスト化を図る。また、造林コストの低減につながる技術の普及や林業経営体の施業の低コスト化に向けた取組を支援する。</p> <p>● 森林経営計画の策定や小規模森林所有者の施業の集約化を引き続き促進し、間伐等の森林整備を計画的かつ効率的に進める。</p>
(3)	<p>○ 新たな需要に対応する技術力や供給体制の整備が十分進んでいないことから、非住宅分野や海外展開に取り組む企業が少ない状況にある。</p>	<p>○ 非住宅分野や海外需要などの新たな需要開拓を図るため、海外(北米)向けや2×4部材などの新たな製品規格にも対応する木材加工施設の整備を支援し、生産力の強化に向けた取組を促進する。</p> <p>また、専門家等を活用し、非住宅分野等の新規需要に対応した製品の生産技術指導等を実施するほか、JAS機械等級等の取得を促進し、品質性能の確かな製品の供給を進める。</p>
(4)	<p>○ 燃料利用の拡大など、素材(原木)需要の増加が見込まれる中で、林業への新規就業者や高い技術力を持った人材が不足している。</p>	<p>○ 引き続き、短期・中期の林業体験研修を行い、県外からの移住を含めた多様なルートからの新規就業者の確保に取り組む。秋田林業大学の研修内容の拡充を図り、林業機械操作はもとよりメンテナンス技術に至るまで、幅広く高度な技術を持った即戦力となる林業の担い手を育成する。</p>

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「B」をもって妥当とする。